

『先人未踏』

誰も成し遂げられなかったことをしたい。
そのエネルギーが、人間を支える。

人がやらないことをしよう。



PSPED BITS

『情報監視と情報漏洩』

エドワード・スノーデン氏が暴露したNSA (米国家安全保障局) による情報監視が大きな問題になっている。通信機器に盗聴器を埋め込むなどして、日本や韓国、トルコなどの同盟国を含む多くの国の在米大使館の通信を盗聴、傍受していたようだ。

電話やインターネットの国際接続は、その大半が米国の相互接続ポイントを経由していると言われている。地球上のすべての国が相互に接続回線を準備するのは大変だから、米国をハブにして各国間を繋げば効率的だということ、この構造が出来上がってきたのだが、その結果として、米国は相互接続ポイントに盗聴器を仕込むなどすることで、容易に各国の情報を監視することができたという訳だ。もっとも、最近では米国への過度な依存から脱却する意図からか、英国や香港などでローカルハブを担おうとする動きもあるようだ。

報道をみる限り、今のところ日本政府はこの問題に鈍感なようだ。当初は何故だろうと思っただが、日本の情報漏洩事件のニュースに接していると、鈍感になっても仕方ないと思わせられる。

2004年に発覚した自衛隊員によるファイル共有ソフト「Winny」経由の情報漏洩事件や、2007年の同じく自衛隊員によるイージス艦の機密情報漏洩事件は記憶に新しい。最近では、フェイスブックなどのSNS上で防衛機密が漏れているとの噂もある。自衛隊に限らず自治体や民間企業も同様で、直近の6月には、1日に1件以上のペースで情報漏洩事件のニュースがあった。いずれも杜撰な情報管理が原因で、盗聴やスパイ以前の問題が山積している。

私自身、インターネットの黎明期には、インターネットに流した情報は誰が見ているか判らない。つまり、どこに漏れても仕方がない、という感覚をもっていった。あれから15年が経過して、インターネットは不十分ながらも、少しずつ信頼を獲得してきたように思うが、今回の事件は、通信インフラの信頼に水を差す出来事になった。どんなに優れた技術も、使い方によっては、善にも悪にもなる。結局は人間の倫理の問題だ。

さて、もし自分の情報が漏洩したらどうだろう。最大の防御策は、知られて困るような事をするな、ということなのでしょう。



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士(人間環境学)。翌月起業。株式会社パイブドビット社長CEO。明白の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など3067の事業者の情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイブドビット
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>